

# Rainbow

## ～六中ユニバーサルデザイン～

All for 六中 ※このお便りは全校向けお便りです。



令和7年12月15日

調布市立第六中学校

校内通級教室

No. 6

校内通級教室では、今年度も学校全体のインクルーシブ教育の構築に向けて取り組み、この「Rainbow」で様々な情報をお伝えしていきます。今月は、校内におけるユニバーサルデザインの取り組みについて、「『一人である』ということ」についてお話しします。

## 校内におけるユニバーサルデザインの取り組み

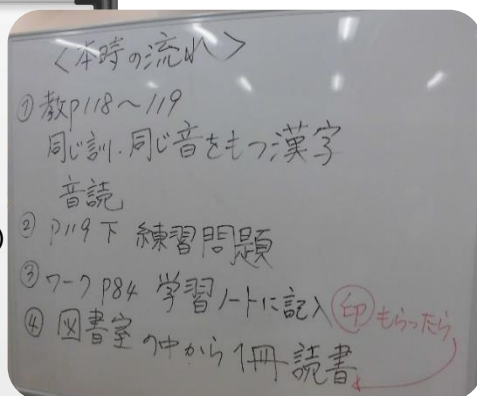
六中ではすべての生徒のために、ユニバーサルデザインに取り組んでいます。今回は本校での取り組みをいくつか紹介していきたいと思います。

ユニバーサルデザインとは…「すべての人ためのデザイン」という意味で、年齢や性別、文化や障害の有無に関わらず、すべての人にとってわかりやすく、使いやすい設計を指します。学校でのユニバーサルデザインとは、すべての生徒が過ごしやすい学校を目指した環境づくりを指します。



### ○ホワイトボードの活用

今年度より、教室の右前に大きなホワイトボードが導入されました。授業の際には、このホワイトボードに本時のねらい（育成した力）と授業の見通し（本時の流れ）を提示することにより、すべての生徒が今何をやっているのか、この授業の狙いが何かを意識しながら授業に参加できる環境を目指しています。



### ○ゾーニング

教室の掲示場所を、テーマごとに区分けして提示するゾーニングを進めました。生徒の皆さんが授業に集中し、教室内での掲示物の場所がさらにわかりやすく、さらに過ごしやすい環境を目指しています。



# 「一人でいる」ということ

10月中旬、校内通級教室では保護者面談がありました。事前に担任の先生と情報交換をしたり、当日保護者の皆さんとお話をしたりする中で、「休み時間に一人でいることが多くて心配」という話になることがよくあります。

本人が「本当は友達と仲良くしたいのだけれど、そのやり方が分からない。」ということであれば、校内通級教室での小集団授業は良い練習になります。そこでも小さなトラブルや衝突はあるのですが、どうすれば良かったのか、何を言えば良かったのかを考える時間が持てるからです。

今回の本題は、そうした話ではなく、「一人でいることを楽しんでいる、幸せを感じる人もいる」というものです。特に日本は同調圧力が強く、他者と同一でいることに安心感を覚え、皆が仲良く話したり、遊んだりするのを理想とする風潮があります。しかし、実際は自分の興味や好みを封印して他者に合わせたり、本心では同意していないのにYESと答えたりしてしまう場面がとて多いのです。自分を周囲に合わせて変えてしまうことが本当に幸せなのか？ということをもう一度問う必要があると言いたいのです。

このような話をすると、「我慢して、他者と合わせることも必要」という意見が出ると思います。しかし、要は集団行動として皆でやろう、という時に「集団での最低限の役割を果たすために、周囲に合わせるスキルさえあれば良い」のではないのでしょうか。

だから、「一人でいることは良くない。改善すべき課題。」という認識には、賛成しません。特に通級に通うお子さんはマイペースと呼ばれる方が多いです。マイペースとは言い換えると「自分の生き方を持っている人」と言えます。他者のために生きている人もいますが、それも突き詰めれば、その生き方自体に満足して自分の幸せのために生きているのです。

「一人でいるのは、本人がそれで幸せならば、全く心配する必要はない。合わせなくてはいけない時に合わせられるスキルがあれば良い。」これが私の答えです。無論、他者と関わることに喜びと幸せを感じる人はそれで良いです。他人に迷惑をかける個性でなければ、どんな価値観であろうと認められていくべきと考えます。

(文責:武藤)

お子様のことでご心配なことがありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

第六中学校 校内通級教室主任(特別支援教育コーディネーター) □□□□

□□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□ □□□□

特別支援教育コーディネーター

1学年 □□□□

2学年 □□□□

3学年 □□□□